

DIGITAL コーラス愛知

2026/10/15
発行
第10号
愛知県合唱連盟

♪ 第66回愛知県合唱コンクール

2026年8月7日(金)～9日(日) 名古屋文理大学文化フォーラム大ホール



今年の愛知県コンクールは新たに設けられた小学生部門に2団体が参加。中学生21（混声4、同声17）高等学校19（Aグループ16、Bグループ3）、大学ユース3、室内3、同声4、混声4の、シード団体を含めた56団体2,000人が参加して行われました。一度は歌ってみたい三宅悠太、信長貴富などの邦人作曲家の作品から、外国の曲までとっておきの曲を披露。これまでの練習の成果が遺憾なく発揮され、甲乙つけ

がたい演奏が続きました。出演者のご家族をはじめたくさんのお客様が応援に駆けつけてくださり、三日間で延べ2,600人が来場。客席が満席になる盛況ぶりでした。

大学ユースの部には3団体が出場。混声合唱団名古屋大学コール・グランツェは、ラトビアの作曲家Jēkabsoneの「FatherThunder」を取り上げ、声やボディーパーカッションで嵐の様子を見事に表現され、雷鳴を表した120人の足踏みは圧巻でした。中部大学は、昨年に続きSchafer「GAMELAN」を披露。ユースの部初出場の合唱団ハモたまは、豊かな表現力のある声で信長貴富の「春」を歌われました。それぞれの個性が活かされた演奏に、客席の中学生から大きな拍手がおくられていました。

高校A(6名以上32名以下)では、それぞれ自分たちの団にあった選曲や練習方法が工夫されており、人数が少なくてもホールの響きを上手く捉え、遠くまで響く声で音楽を届けていました。自信を持って練習の成果を披露される姿に、たくさんの拍手がおくられました。高校A・Bの審査発表、表彰式の後には大学職場一般部門（室内・同声・混声）が19時まで行われました。大人が本気で練習に取り組んだ成果が発揮され、難曲を難しいと感じさせない熱演が続きました。来年も、素敵な演奏がたくさん聴けるのを楽しみにしています。

♪ 県コンクール結果 ○印は県代表 [結果はこちらから](#)

♪ 小学生部門

金賞・全国大会推薦

○岡崎市立三島小学校合唱部

♪ 中学生部門 混声合唱の部

金賞 ○名古屋市立滝ノ水中学校合唱部

○名古屋市立志賀中学校合唱部

♪ 中学生部門 同声合唱の部

金賞 ○名古屋市立萩山中学校合唱部

○岡崎イースト Ryukai JH

○名古屋市立桜山中学校コーラス部 名古屋市立御田中学校合唱部

♪ 高等学校部門 A グループ

金賞 ○愛知教育大学附属高等学校音楽部

○名古屋市立向陽高等学校合唱部

○金城学院高等学校グリークラブ

愛知県立豊田東高等学校合唱部

シード ○桜花学園高等学校合唱団

♪ 高等学校部門 B グループ

金賞 ○聖カタリナ学園光ヶ丘女子高等学校合唱部

シード ○愛知県立岡崎高等学校コーラス部

♪ 大学職場一般部門 大学ユースの部

金賞 ○混声合唱団名古屋大学コール・グランツェ

♪ 大学職場一般部門 室内合唱の部

金賞 ○Ensemble Spicy

シード ○エシュコル

♪ 大学職場一般部門 同声合唱の部

金賞 ○男声合唱団 響

シード ○VOCI BRILLANTI

♪ 大学職場一般部門 混声合唱の部

金賞 ○岡崎混声合唱団

合唱団ういろう

♪ 全日本合唱連盟理事長賞

岡崎混声合唱団

♪ インタビュー

全日本理事長賞に選ばれた岡崎混声合唱団の江尻和史団長にお話を伺いました。

・全日本理事長賞の受賞おめでとうございます、今の率直な感想をお願いします

—遠隔地の団員もいるため、全員そろわない苦労もありましたが、音源を共有してピアノと合わせる練習をしてきました。それでも、自由曲の速いところを合わせるうえで不安もある中、本番が一番いい演奏ができたことが嬉しかったです。

・今回の自由曲「狂恋の一滴 ～恋の色彩 抄～」について教えてください

—自由曲は曲のテーマが古今和歌集の恋の歌であり、和歌の世界観を表現できるような歌い方を工夫しました。

・中部コンクールへの意気込みをどうぞ

—今回やり残したこと、徹底しきれなかった表現を一つずつ丁寧にできるようにして、聴いている方にもっとパワーアップした岡混の演奏を聴いてもらいたいです！

♪ 審査員の先生のご感想



初鹿野剛 水野みか子 中巻寛子 キハラ良尚 新実真琴 (敬称略)

♪ キハラ良尚 先生

【中学生部門】

レベルの高さが印象に残りました。選曲もバラエティーに富んでいて素晴らしいと思いました。

合唱をこれからも楽しみ深めていてほしいですし、高校生、大学生、社会人になっても合唱を大切に続けてほしい。これからの人生の中でも音楽を愛し続けてほしいと心から願います。

【大学ユースの部】

思い切りのある表現、力強さが印象に残った反面、より繊細な表現が聴きたい。それが加わったらもっと魅力的になると思いました。

【高等学校部門】

参加校の多さに驚いたと同時に、とても素晴らしいことだと思いました。チャレンジングな選曲もあり、大変興味深く聴くことができました。

言葉への感覚、言葉を音楽として昇華させ客席へ届けることの難しさを改めて感じました。

ハーモニーの変化や転調による表現、色彩の変化に、もっと敏感にならなくてはならないと思いました。

【室内合唱の部】

音楽の自然な流れを、起伏を伴いながらつくりあげ、綿密にアンサンブルを構築することが大切なのだと感じました。

【同声合唱の部】

女声合唱、男声合唱のそれぞれにしか出せない魅力があると思います。共学化の流れもあって同声合唱団がなくなってしまうということもあるようですが、今回出場された合唱団が今後も末永く存続し、歌い続けてほしいと心から願います。

【混声合唱の部】

各団の個性が際立っていたと思います。意欲的な自由曲の選曲、熱意ある演奏が印象に残りました。音楽の持つ自然な流れに逆らうことなく自由に個性あふれる表現をする難しさを感じました。

♪ 中巻 寛子 先生

【中学生の部】

元気な中学生の皆さんの演奏を聴かせていただいて、こちらまで元気になりました。ありがとうございます。いずれの団体の演奏も、日々の努力を忍ばせる真摯で良いものであったと思います。それを踏まえた上で、今後のさらなる向上のために、ひとつだけ気になった点を挙げさせていただくならば「歌詞の歌い方、表現について」ということになるでしょう。合唱ですからハーモニーについては非常に気をつけて練習しておられると思います。しかし、歌詞については、まだまだ改善の余地があると思いました。発音、表現ともにです。ぜひとも、ご自分たちの演奏を客観的に聴き直して、考え、工夫を重ねていただければと思います。

【大学ユースの部】

3団体の出演でしたが、各団の特徴が生かされて、いずれも楽しく聴かせていただきました。どうかこれからも歌い続けていただきたい。歌うことを楽しんでいただきたいと切に願います。

【高等学校部門】

高校生の皆さんの若々しい歌声を楽しく聴かせていただきました。演奏力という点では若干差があったかもしれませんが、しかし、今回の演奏が各人にとって、現状のベストであったことを願っています。課題曲として「歌碑」を選んだ団体が5校ありましたが、音楽的にも、歌詞の解釈にしても、とても難しい曲だと思いました。各団体がなぜこの曲を選び、何に注意して曲作りをしたのかをお尋ねしてみたいと思いました。

【室内合唱の部】

まず、社会人になっても歌い続けておられる皆さまに、心から敬意を表したいと思います。各団の特徴がよく表れた、良い演奏だったと思いました。

【同声合唱の部】

シード以外の3団体の方は、やや声の支えが不足していたかなという印象をもちました。歌の基本をもう一度見直していただければと思います。pを歌うのはfを歌うよりも難しいです。pこそ支えて。

【混声合唱の部】

どの団体も素晴らしい演奏で、実力伯仲でした。順位をつけるのが難しかったです。それぞれの個性の違いも光り、皆さんの演奏を心から楽しませていただきました。ありがとうございます。

♪ 新実 真琴 先生

【中学生部門】

どの合唱団も素晴らしい。声もよく訓練されているし音楽的にも水準が高い。

発声について、声はどんな曲をどんな声で歌いたいのか？ということなので、一律にその発声が正しいとは言い切れない。ただ、歌っていて苦しくて楽しくないのなら、その発声はあなたにあっていないということ。

指導者と合唱団員の努力の素晴らしい結実をたくさん聴かせていただき楽しかった。できることならば審査などしないで、音楽に浸っていたかった。

音程やリズム、声を失敗というか思い通りにいかなかった箇所など、自分が一番おわかりでしょうからわざわざ言いませんが、とにかく素晴らしい演奏ばかりだった。

【大学ユースの部】

140人のコーラスと20人のコーラスの聴き比べは難しい。課題曲も、それぞれ全くスタイルが違う。聴いているのは楽しいけれど、それぞれ人数に合った練習方法を工夫なさるのもよいでしょう。少人数のグループは、何といてもピッチが重要です。

【高等学校部門】

様々な団体がありました。課題曲にも大変難しい曲がありましたが、とてもうまく演奏している団体がいくつかありました。自由曲の方がのびやかに楽しく歌っている印象があります。金賞受賞グループはいずれも甲乙つけがたく素晴らしい演奏でした。

【室内合唱の部】

a i u e oの母音をしっかり発音してほしいと感じた。それぞれ選んだ曲を存分に楽しんで歌っておられると思いました。

【同声合唱の部】

表現の難しい曲を選んでいると感じた。

【混声合唱の部】

「演奏会」でした。実に素晴らしい、それぞれ個性豊かで完成された演奏でした。

♪ 初鹿野 剛 先生

【中学生部門】

混声、同声ともに若々しいハーモニーを聴かせてくれました。同声合唱の部では、無伴奏で難しい和声に挑まれる団体も多く、そのいずれもが大変よくやっていました。

課題として挙げるならば、体を使った発声へのさらなる取り組みでしょうか。強弱の差がほとんどない、音程の不安定さ、高音域の音の固さ(共鳴の少なさ)他、すべてにつながるかと思います。ぜひ指導者の先生方とともに、今後取り組んでみてください。

【大学ユースの部】

成熟した大人のハーモニーを聴かせてくださいました。それぞれの団体のカラーが異なり、大変興味深く拝聴しました。

【高等学校部門】

難易度の高い曲に果敢にチャレンジされた学校もあり、大変聴きごたえのある部門となりました。高難易度曲へのチャレンジを今後お願いしたい反面、それぞれの持ち味(生徒の声の出る音域、ソルフェージュ能力等)に応じた選曲をお願いしたい学校もいくつかありました。それぞれの曲をただピッチを正しく歌うだけでなく、歌詞の内容をふまえ音楽的に表現するところまで求めてほしいと思いました。

【室内合唱の部】

無伴奏、20人程度の密なるアンサンブルの世界。ハーモニー重視でありながら、歌詞の発語(とりわけ子音)にも配慮が出来たなら、と思いました。

【同声合唱の部】

それぞれの団体が高度なアンサンブルを聴かせました。フレーズを収めるとき、息のスピードを減衰させて行うことにより、歌詞の聞き取りにくさにつながる場合があります。

【混声合唱の部】

出場4団体ともに共通するのは課題曲「河」だけ。この「河」の演奏もどれもが納得がいき、自由曲に至っては各団のカラー、曲の持ち味がそれぞれ最大限に出たものでした。私をはじめ審査員一同、採点に大変苦慮したことを申し添えます。

♪ 水野 みかこ 先生

【中学生部門】

それぞれのグループに合った選曲で音楽のポイントをつかんでよく歌えていると思いました。身体全体で音楽を感じている様子がみえました。指導の先生との努力が美しいハーモニーになっていて感動しました。

選曲の段階で、音楽の特性や言葉、難易度などを考えると思いますが、まずは言葉の理解、そして和声や音程の正確な体得を心がけると、音楽がぐっと引き締まると思います。今後も音楽を生活の中に取り込んで、毎日を力強く暮らしてください。

【大学ユースの部】

自主的に活動している様子が伝わります。知的な構成とエネルギーがあふれる、自信ある歌い方に好感を持ちました。

【高等学校部門】

自分たちに合った曲を選び、個性を出しています。技術的に未熟な学校も、スキルの高い学校も、それぞれの今後をみつめて、コンクールの結果だけを求めるのではない活動が続けてほしいと思います。言葉や和音の解釈は、人によって異なるのかもしれませんが、歌うときは皆が同じ方向を見ていると、聴いている側も安心できます。

【室内合唱の部】

課題曲の中で、個性を出すのは難しいかもしれませんが、時代や作曲者の気持ちを想像して、ご自分の人生と重ねてみてください。オリジナリティがみつかるはずです。

【同声合唱の部】

生き生きと歌っていて気持ちがいいです。日々の生活の中で音楽を忘れないでください。

【混声合唱の部】

どの団体も素晴らしい声のアンサンブルで感動しました。作品への気持ちと、取り組みの熱心さが実を結んだのだと思います。

♪ 小学生部門

全日本合唱連盟では2019年より試行期間として小学生の全国大会を行っていますが、愛知県としては今回初めて県大会を開催しました。刈谷市立亀城小学校合唱部と岡崎市立三島小学校合唱部の2校が出場され、神さまからいただいたままの透き通った美しい声で、わらべ歌や小学生にもファンの多い横山潤子作品を豊かな表現力で披露され、聴いていた大人の心を幸せな気持ちでいっぱいにしてくれました。

♪ インタビュー

中学生部門、高等学校部門、大学職場一般部門に先立ち、8月7日(金)に小学生部門が行われ、愛知県では初の開催となりました。小学生部門に参加した2団体にインタビューをしました。



「笑顔、一位!」を合唱部の合言葉にしていた刈谷市立亀城小学校合唱部部長の三浦さんと、副部長の藤田さんに、開演前の待ち時間にお話を伺いました。

・初参加の感想をまずは教えてください。

—三浦さん：やっぱり初参加なので緊張するんですけど、その中にワクワクがあります。どんな感じなのか少し気になります。

—藤田さん：緊張してるんですけど、まずは楽しみたいです。

・今回皆さんは自由曲「ずいずいずっころばし」を選んでいらっしゃいますが、どうしてこの曲を選ばれたのかを教えてください。

—三浦さん：2年前の4年生の頃に6年生たちと音楽会で一緒に歌っていたので、思い出があって、もう一回やってみたいと思ったからです。

・今、歌っているなかで、どんなところに気をつけているかを教えてください。

—三浦さん：自由曲の「ずいずいずっころばし」は、最後の一番高い音を聞いて歌っています。課題曲の「一番はじめは」は、「いちのみや」の音を安定して出せるように頑張っています。

—藤田さん：自由曲の「ずいずいずっころばし」はテンポが速いので、速くなりすぎないようにしています。課題曲の方は、最後の4パートみんなでハモるところをきれいにハモれるように気を付けています。

・どうもありがとうございました。

金賞を受賞され**全国大会へ推薦**された、**岡崎市立三島小学校合唱部**のみなさんにコンクール終了後お話を伺いました。



6年生 河合さん

・今日のコンクールを振り返って
どうでしたか？

—まだ完璧ではないけど、自分たちにとっては納得できる合唱ができました。

・どこが、まだまだだと感じましたか？

—ソプラノが高音の時とアルトが低音の時のハーモニーがあまり鳴ってない感じがしました。

・全国大会に向けた意気込みをお願いします

—自分たちの中で最高の合唱をつくる！

・最後に、参加してみてどうでしたか？

—とても楽しかった！

指揮 井上恵理奈先生

・自由曲「にじ」を選んだ理由を教えてください

—昨年取り組んだ「ああ ひまわり」という曲は、演奏時間が4分ギリギリだったことから焦りが生まれ、テンポを巻いてしまい雑な演奏で終わってしまいました。今年は、時間を気にせずたっぷり歌い切りたいとの思いから、焦らず表現できる演奏時間が3分40秒の「にじ」を選びました。また、今年の子たちはよく声が揃い透明感があるので、この子たちがもつ世界観とこの曲が合いそうだと思います。

♪ **第8回 全日本合唱コンクール全国大会小学生部門**

2026年11月8日(日)

アクトシティー浜松

♪ **第79回 全日本合唱コンクール全国大会中学生部門・高等学校部門**

2026年10月24日(土)・25日(日) フェスティバルホール (大阪府)

♪ **第79回 全日本合唱コンクール全国大会大学職場一般部門**

2026年11月28日(土)・29日(日) 札幌コンサートホールKitara



午前の部は2年生からスタート、身体の成長とともに声量も豊かになり、昨年度も参加した人が多かったこともあって、講習会への取り組み方や集中力は素晴らしいものでした。前半では、やっているつもり、できているつもりでの発声の基礎・基本の確認をし、フレーズの流れや推進力をつけるためには、身体の支えや呼吸が大切なことを学びました。後半では、課題曲「翼をください」を歌う中で、前半に学んだことを実際の歌唱に生かすことができていました。

2年生を対象にしたワンポイントレッスンでは、前半で歌った「翼をください」を題材に、各団体が限られた時間の中で真剣な表情で精いっぱい学び取ろうとしていました。講師の金原先生のアドバイスへの素早い反応に、ご指導にも熱が入りました。

午後に行われた1年生の部の前半では、姿勢や身体の支え、呼吸の仕方などの基礎・基本を学びました。後半には課題曲「君をのせて」を歌いながら、日頃課題に感じている声の悩みの解決法を具体的に教えていただいたので、とても美しい歌い方に変わりました。

♪ インタビュー

参加した中学生からの声を紹介します。

Y.S.さん

いつもの練習と違うことがやれて楽しかったですし、息の使い方などが学べて良かったです。

M.M.さん

他の団体と歌えて、いつもと違って色々な声の人と一緒に歌えて楽しかったです。学んだことは団体で役立てられそうです。

A.Y.さん

同じ年代の合唱をやっている子たちとかかわるいい機会になりました。高い声を出す時にうまくいっていなかったのが、自分にあった発声を身につけることができてとても良かったです。